

委員会視察成果報告書

令和7年9月11日

犬山市議会議長

議員名 沼靖子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年8月27日(水)
(2) 視 察 地	愛知県春日井市消防本部
(3) 視察の種類	総務委員会
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙のとおり
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別紙のとおり



春日井市消防本部 視察報告書

① 視察の成果

■立地と出動環境

- ・春日井市消防本部は、市域のほぼ中央に位置しており、主要幹線道路である国道19号の渋滞を避けつつ、迅速に出動できる立地を確保している。
- ・「大通り沿い＝便利」という発想ではなく、地理的中心性・出動のしやすさを優先した点が特徴的。
- ・消防本部は「迷惑施設」と捉えられる一面（訓練・サイレン音など）もあるため、周辺環境との調和を意識した配置が行われている。

■建物設計と職員環境

- ・消防本部は出動と休養という二面性を併せ持つ施設であることから、緊張と生活のオンオフを切り替えられる空間設計が工夫されている。
- ・動線設計は明確に区分され、執務空間と休憩スペースを混在させないことで、心理的にも切り替えやすい環境を実現。
- ・女性職員の増加を見据え、仮眠室や洗面所などに専用配慮がなされており、「男性と同等の環境を原則」としつつ、安心して勤務できる環境を整備している。

■環境・市民への配慮

- ・燃料には軽油を使用し、自家発電設備などの燃料と統一することで、廃油ゼロを実現。環境負荷を抑える工夫がなされている。
 - ・市民向けの貸出施設は設けていないが、体験型防災学習コーナーを設置。
 - ・煙の中を避難する訓練
 - ・水没道路を想定した悪路歩行体験
 - ・消防車両見学など
- 子どもや市民が実際に体感できる学びの場として機能している。

■プロセスと職員参画

- ・基本構想から共用開始まで約8年。体感的には「短期間」と受け止められている。
- ・約2年の工事期間中、建築関連法規が変更されるなどの制約がありながらも、職員によるチーム検討を通じて収納・動線・執務環境の最適化を追求。
- ・職員の意見を随所に反映したことが、現場での高い満足度につながっている。

② 犬山市に対する提言

1. 立地選定の視点

- ・ 出動拠点の立地は「大通り沿い」よりも「市域全体におけるバランス」「渋滞回避性」を重視する場所を検討すること。
- ・ 犬山市においても、生活道路や周辺環境との調和を前提に、最適な配置を検討する必要がある。

2. 職員環境の整備

- ・ 消防は出動と生活が同居する特殊な職場である。
- ・ 心理的オンオフを切り替えられる環境設計（動線分離・休養空間の充実）は不可欠。
- ・ 女性職員増加に備え、仮眠・更衣・衛生面の専用配慮を必ず組み込むべき。

3. 市民への開放性

- ・ 市民貸出施設としての運用は難しいが、防災教育の拠点として機能することは有効。
- ・ 子どもや市民が「体験型」で学べる仕組み（煙体験・水害体験等）を導入し、防災意識向上の拠点とすべき。

4. 環境配慮と持続可能性

- ・ 発電設備と燃料を統一し、廃棄を減らす取り組みは参考になる。
- ・ 犬山市としても、環境負荷軽減とコスト削減を両立させる設計を検討すべき。

5. 計画・工期と職員参画

- ・ 春日井市は 8 年間で完成。工事期間は約 2 年であったが、法改正や物価変動への対応が不可欠であった。
- ・ 今後は資材・人件費の高騰も予想されるため、計画段階から柔軟に対応できる仕組みが必要。
- ・ 何より職員の声を計画段階から反映させることが、使いやすさと現場力の向上に直結する。